

4月の例会の報告 (1983.4.1. 那志大に2, 日本地理学会 在地地形研究会90-70と共催)

(発表者)

- 1) 渡辺 博二 (筑波大・院): ハイマツを主体とした高山環境の把握
——北P・立山をフィールドとして—— (修論構想)
- 2) 森永 由紀 (筑波大・院): 立山の雪渓の融雪に関する熱収支特性
(修論構想)
- 3) 守屋 以智雄 (金沢大): 白山の現成階状土
- 4) 吉田 栄夫 (在地研): やまの山脈とドライ・ウレーの地形
- 5) 藤井 理行 (在地研): 南極半島・サウス・ジーズ島の地形

(要旨)

- 1) 北P・立山連峰をフィールドとして、我国の高山帯の代表的な植生であるハイマツの分布と、消雪時期、微気象、地形、その構成物質や岩層の移動量などとの対応を把握し、ハイマツと高山環境との関係のモデル化を試みる: とが述べられた。
- 2) 雪渓上の融雪と気象の因子の関連をさぐるために、立山連峰の剣沢上部「はまり雪」と雷鳥沢の雪渓上で、今夏融雪の観測を行う。
一般に、融雪は様々な気象要素の中で気温との関係が一番高いとされ、 $M(\text{融雪量}) = f \Sigma T$ (f : degree day factor, T : 積算気温) で表わされる。修論では、degree day factorの検討と、気象のパターンや気温との関連について考察することが述べられた。
- 3) 白山山頂付近に分布する現成の階状土についての発表が地理学会に先がけ2行われた。

前述のように、多くの階状土は、緩傾斜の雪渓周辺に分布している(図1)。

上面(階段の平坦部)から下位の上面に向かって、植被前面(末端

5月の例会のお知らせ

日時: 5月14日(土) 14:00-17:00

場所: お茶の水女子大学 文教育学部 地理教室

地下鉄・茗荷谷駅下車 徒歩10分

発表者:

- Hugette Vivian (ケルシー大): フランス・ピュプスの
氷河氷文学について (議題) <通報付>
- 田村 光穂 (学芸大・院): 日本ピュプスの峯錐地生 (修論構想)
- 田淵 洋 (法政大): 東カリマツランの地形と気候
—スライドを中心に—

⑧ 予告

(1) 比較氷河研究会が、5月22日(日)・23日(月)、筑波大学・水理
実験センターで開催されます。

本パー・ル・ヒマラヤでの氷河ボーリング・プロジェクトの成果のほか、
近年の気候変動と氷河変動というテーマのものと10~15の発表
が予定されています。

参加希望者は事務局まで御連絡下さい。

(2) 極地地形研究グループの例会が6月11日(土)、10:00~17:00、
極地研究所2階の講義室で開催予定です。

ラング・ホフ「地域」、および「ヤマシロ」の1/2.5万地形学図
についての発表が予定されています。

2/2

④事務局から

前月号の通信でお知らせしたように、本会会員の山中英二君の消息はいまだに不明で、大変憂慮される状況になっています。

先日の日本地理学会の際に、東北大学のオオモトを中心として、搜索委員会がつくられ、岩田地形学研究会も全面的に山中君の搜索に協力することになりました。

つきつて、同封しました趣意書のように、搜索費用を捻出するための募金をいたしたいと存じます。一口3,000円をねがっておりますが、これより少額でもかまいません。また、あくまでも自主的にしていただく募金ですので、お志のある方だけ結構でございます。4月末日までに同封の振替用紙に2お送り下さるようお願いいたします。なお、搜索活動は5月の連休時におこなひ、その結果を42次回を5月中旬～下旬にかけておこなう予定です。

本会では岩田修二さんが連絡先になっておりますので、搜索活動に御協力いただけたら幸いです。直接、岩田さんに御連絡下さい。